

# 北陸大学ライブラリーセンター報

Bulletin NO.23

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 入賞おめでとうございます

大桑 和雄  
(ライブラリーセンター長)

⇒ 視界を広げる読書  
— 読書感想文審査を終えて

屋木 美里  
(審査委員長・教育能力開発センター教授)

⇒ 最優秀賞  
『ブレイブストーリー』を読んで

出島 一茂  
(未来創造学部 未来創造学科 2年次生)

⇒ 優秀賞  
『「在日」としてのコリアン』を読んで

呉 松花  
(法学部 法律学科 4年次生)

⇒ 優秀賞  
『人は見た目が9割?!』

徐 茵菲  
(未来創造学部 未来社会創造学科 3年次生)

⇒ 優秀賞  
『日本という国』を読んで

出越 菜摘  
(未来創造学部 未来文化創造学科 3年次生)

⇒ 優秀賞  
『夏の庭』を読んで

二橋 環  
(未来創造学部 未来社会創造学科 2年次生)

⇒ 優秀賞  
『わたしのなかのあなた』を読んで

前田 絵美  
(未来創造学部 未来社会創造学科 2年次生)

⇒ 電子ジャーナル導入のお知らせ

⇒ 読書コメント大賞のお知らせ

⇒ 目次

# HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報



第6回 北陸大学読書感想文コンクール

## 入賞者を表彰

### 入賞おめでとうございます

ライブラリーセンター長 大桑 和雄

第6回読書感想文コンクールで入賞された皆さん、誠におめでとうございます。思いのたけをさまざまな言葉でつづり、素晴らしい文章として表現されましたことに、ただただ感銘を受けた次第です。また、入賞者を含め61名の方に、このコンクールに応募いただいたことに敬意と感謝を申し上げます。

一節、一行、あるいは一つの言葉に対して、感性を研ぎ澄まし、著者の思考と格闘しながら、また共鳴しながら、自らの心の奥底にあるものを呼び起こして、新たな思考を形成する過程は、非常に骨の折れる、時にはつらく、投げ出したくなるような思いにとらわれることもあったのではないのでしょうか。

しかしながら、感想文を書き上げることで、一方では、スポーツ選手の運動能力が高められるがごとく、新たな知の創造能力が磨き上げられたものと思います。個人的には、読書は知的格闘技だと思っています。著者との静かな戦いを通じて、切磋琢磨し自らを改革し、高めていく、そして読書によって、人間性は鍛えられるものだと考えています。

話は変わりますが、日本は世界的に見ても、年間に発行される書籍の種類、数、また出版社が多く、識字率の高さも関係したのかもしれませんが、もともと日本人は読書に慣れ親しんできた民族とされています。かつての日本の成長にも読書が大きく寄与していたのかもしれませんが、ただ、最近では活字離れが進んできたなどの話をよく耳にしますが、本学では、入賞者を含めこれほどの学生の皆さんが読書に興味を示し、親しまれていることに非常にたのしく思った次第です。

どうぞ、これからも読書を通じて、感性と理性に深みを加え、停滞なく何度でも新しい自分に生まれ変わるチャレンジを続けていただきたいと思います。



入賞者の皆さん（平成19年1月24日の表彰式において）

## 視界を広げる読書 ― 読書感想文審査を終えて

審査委員長・教育能力開発センター教授 櫻田 芳樹

すでに昨年のことですが、第6回読書感想文コンクールには60篇余りの応募を得て、最優秀作及び5篇の優秀賞を選ぶことができました。応募者、応募を奨励して下さった各位に感謝します。優秀賞以上の作品は自分の立脚点がはっきり示されているものが選ばれました。

宮部みゆき『ブレイブストーリー』を取り上げた屋木美里さんは、話の筋を紹介し、内容分析を加えるのに、河合隼雄『ファンタジーを読む』など心理学の見方を利用して分析を進めました。人生の危機に投げ出された子供にファンタジーの世界が開かれ、その試練を越えて主人公の脱皮、生まれ変わりが実現する物語の構造が立体的に捉えられています。

原尻英樹『「在日」としてのコリアン』を選んだ呉松花さんは、中国の少数民族朝鮮族の視点からこの本を読み、日本における在日韓国、朝鮮人の問題と向き合っています。

湯本香樹実『夏の庭』を読んだ二橋環さんは三人の子供とおじいさんの物語に、彼等の死に対する考え方の深まりを読み取り、自分の生に対する考えを対比させています。

ジュディ・ピコー『わたしのなかのあなた』は、生体移植や遺伝子操作など驚異的生物学、医学の発達によってもたらされた状況から生まれたフィクションです。前田絵美さんは、この小説を幾分ノン・フィクションのように読んでいるかもしれません。勿論この小説を発想させる事実は起っているのですが、薬学の先生の話では遺伝子操作による「デザイン・ベビー」というようなことは有りえないということでした。でも昔なら神の領域に属するような医療が行なわれ、作者に「デザイン・ベビー」という言葉を使わせる現実があり、前田さんはそれをこれから起りえる大問題として考え始めました。

竹内一郎『人は見た目が9割』とはいかにも刺激的な題名で、しばらくベストセラーの位置を占めました。徐茵菲さんの紹介を読みますと、著者のいう「見た目」とはルックスだけではなく、仕草や目つきなど自ずと内面ににじみ出てしまうものを含めて言っているようで、徐さんの読み取りも磨かれた心をありのままに表現すれば生き生きした「見た目」が生まれるのではないかという結論を書いています。

小熊英二『日本という国』は、近頃韓国、中国などからその歴史認識を問われる事の多い日本の来し方を知るのに役立ちます。出越さんはその内容を紹介しながら、自分の考えを確かめています。

優秀賞に選ばれた作品は、水準はともかく、いずれもその人なりの立脚点に立って自己の視野を広げていると思いました。

### 入賞作品

📖	最優秀賞	『ブレイブストーリー』を読んで	2005F094	屋木 美里	(未来創造学部 未来社会創造学科 2年)
📖	優秀賞	『「在日」としてのコリアン』を読んで	2003L044	呉 松花	(法学部 法律学科 4年)
		『人は見た目が9割?』!	2006F826	徐 茵菲	(未来創造学部 未来社会創造学科 3年)
		『日本という国』を読んで	2004F161	出越 菜摘	(未来創造学部 未来文化創造学科 3年)
		『夏の庭』を読んで	2005F075	二橋 環	(未来創造学部 未来社会創造学科 2年)
		『わたしのなかのあなた』を読んで	2005F079	前田 絵美	(未来創造学部 未来社会創造学科 2年)
📖	佳作	『キッチン』を読んで	2003E054	高瀬 結子	(外国語学部 英米語学科 4年)
		『天使になった男』を読んで	2004F108	山本 実枝	(未来創造学部 未来社会創造学科 3年)
		『娘に語る、お父さんの戦記』読書感想文	2006F867	李 森	(未来創造学部 未来社会創造学科 3年)
		『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』を読んで	2005F118	北本 亮	(未来創造学部 未来文化創造学科 2年)
		『中国のいまがわかる本』を読んで	2005F144	辻口 美和	(未来創造学部 未来文化創造学科 2年)
📖	努力賞	『ゲルマニウムの夜』を読んで	2005F016	沖津 大己	(未来創造学部 未来社会創造学科 2年)

\* 学年は平成18年度のものです。

最優秀賞

## 『ブレイブストーリー』を読んで

未来創造学部 未来創造学科 2年次生 屋木 美里

著者 宮部 みゆき

出版社 角川書店



「子供達にとって家族はその日常を守る役割をしてくれている。その『守り』から離れたとき、子供達は非日常の世界の体験をすることが多いのである。」(『ファンタジーを読む』講談社+α文庫p.176)。ユング派の臨床心理学者である河合隼雄先生のこの言葉どおりに、このファンタジーは始まる。

主人公ワタルの平凡な日常は、唐突に崩れる。父親が母とワタルを捨て、愛人のところへ行ってしまったからだ。家族を元に戻そうと、ワタルは、ミツルに招かれて「幻界」へ旅立つ。幻界にある運命の塔、そこにたどり着けば女神が願いをかなえてくれる。ワタルの願いは、運命を変えてもらうこと。そのために、ワタルの「勇気物語」が始まるのである。では、この物語が描く勇気とは何なのだろうか。

ワタルは、5つの宝玉を集めるため、5つの試練を受ける。そのうち4つは肉体的、物理的試練、最後は精神的、心理的試練だ。これは、ワタルの成長を顕著に表すための、典型的な試練だと言える。ワタルは初めて親元を離れ、自分で選んで幻界に入り、仲間に支えられて試練を乗り越える。ミツルは、目的のためなら手段を選ばず、1人で歩み、試練に立ち向かい、常にワタルの前を歩む。

同じく運命を変えんとする2人は、しかしまったく別の方法で試練を乗り越えた。どちらが正しいかはわからない。しかし、どちらが好ましいかはわかる。人が成長する過程において、重要となるのが人間関係である。身体の成長ならば、どんな人でも大人になるにつれて、身長が伸び、体重が増えて、大きくなっていく。それはいわば、自然な変化だ。しかし心の成長は違う。心は何かのきっかけで、自分自身を変えようと思わなければ、ずっとそのままでもいることも可能、という恐ろしいものだ。心は、強制しないと変わらないものであり、その感情のすべてが美しいとは限らない。誰にも醜い心は巣食っている。それを、ワタルは学んだ。ミツルは学ばなかった。というより、学ぼうとすら、思わなかった。それはなぜか。ミツルの目の前には、強すぎる願いゆえに、その思いしか映らなかったからだ。運命を変える、という願いだけしか。

4つの宝玉を集めた後、ワタルは運命の塔へと向かう。天上にある運命の塔。其処まで向かう道のりには、ワタルが今まで旅してきた町や村の姿が寄せ集められていた。そこは完全な一本道。それが象徴しているのは、自己を見つめ直すことではないだろうか。1本道、それこそが人生を表している。まさに、自分の“歩んできた道”そのものだ。横道に戻ってやり直すことはできない。引き返せば道は途切れる。その道は、最後の試練の前に、自分が幻界で学んできたことを思い出させるため、だったのではないか。案の定、その直後の5つめの試練で、乗り越えなさいと言われたのは、自分の鏡像、過去だった。憎しみの心そのままに行動し、父と愛人に似た境遇の男女を殺してしまった自分の、分身だ。憎しみを自分の中に取り戻した後、ワタルは「魔」に出会う。魔は、女神を倒し、世界に君臨しようと誘う。この魔を倒すことこそ、つまり、「甘い言葉の誘惑に惑わされず、自分の欲望に負けず、“負なるもの”を倒すこと」こそが、最後の試練だった。

これらの分身や魔は、ユングの言う「影」に関係するのではないだろうか。ユングは、「影」の定義として、「影は、その主体が自分自身について認めることを拒否しているが、それでも常に、直接または間接に

自分の上に押し付けられてくるすべてのこと、たとえば、性格の劣等な傾向やその他の両立しがたい傾向を、人格化したものである。」(河合隼雄著『影の現象学』、思索社p.25)と述べている。この話で、ワタルの影と呼べるものは3つある。はじめは受け入れがたかった、性格が対称的なミツル。殺人を犯した憎しみの鏡像。そして甘い言葉で誘う「魔」。

こうして「影」について考えてみると、「プレイブストーリー」は、「自分の影」との戦いが根本にあるのではないだろうか。つまり、「これは僕の勇気の話」という映画の宣伝文句にある、ワタルの「勇気」を示すのは、悪を懲らしめ、塔にたどり着き、幻界を救った、という外面的な戦いで勝利ではないのか。むしろその裏側にある、塔にたどり着くまでに超えてきた旅の中で得た経験を消化し、「自分の影」に立ち向かったという内面の戦いにこそその勇気が示されていると思うのである。

誰も自分の醜い部分は見たくないし、見せる人も好まない。辛い真実の言葉より、甘く、優しい欺瞞を受け止めるほうが楽だ。けれど世界は、世の中は、そんなに甘くない。とはいえそんなことを難しい言葉で講釈されても、分からないし、子供は分かろうともしないだろうから、ファンタジーが描いている。子供の成長のために。それを読み聞かせる大人が思慮するために。ファンタジーは子供の本だといわれることが多いけれど、深く読み込むことによって、其処に存在しているものが見えてくる、誰もが成長するための糧だと言えよう。

### 最優秀賞を受賞して .....

今回のような賞をいただく事が出来、大変光栄に思います。もともと読書は好きなのですが、感想文を書くに至るまでしっかり読み込むことはあまりありませんでした。ですから、このコンクールは、自分の考えを自由に書く機会を得ることが出来る貴重な経験であり、知識や能力を磨く機会でした。今回初めて、心理学のほうにまで手を伸ばしてみたのですが、これから普段読まないジャンルへ幅を広げて知識量を増やしながら、大学生活を充実させていきたいと思えます。

## 平成19年度学術資料委員紹介

大西 邦治	学術資料部長・紀要編集委員・読書感想文審査委員	教育能力開発センター教授
藤井 洋一	紀要編集委員長	薬学部教授
長谷川孝徳	紀要編集委員	未来創造学部教授
轟 里香	紀要編集委員	教育能力開発センター准教授
櫻田 芳樹	読書感想文審査委員長	教育能力開発センター教授
大楽 光江	読書感想文審査委員	未来創造学部教授
山本 千夏	読書感想文審査委員	薬学部准教授

優秀賞

## 『「在日」としてのコリアン』を読んで

法学部 法律学科 4年次生 呉 松花

著者 原尻 英樹

出版社 講談社



「日本は単一民族の国家である」という話を、日本に来て私は何回も耳にした。56の民族を持っている中国とは対照的で、民族問題も起こることなく、すっきりして、管理しやすい国だという印象を持つようになった。初めて「在日韓国・朝鮮人」のことを知ったとき、私は日本人はずるいと思った。私には、「在日韓国・朝鮮人」は「日本の少数民族」と言うほかないと思われたからである。しかし、すぐ、「在日韓国・朝鮮人」は日本国籍を持っていないと知らされた。私は分からなくなった。そこで、勉強することにした。手にしたのが、この本である。筆者はこの本で「在日韓国・朝鮮人」の歴史と実情を説明し、日本社会の問題を問い直しているが、少数者への差別はどの地域でもどの国でも、程度の差はあれ、存在するものである。そして、過去に遡るほど辛い血と涙の歴史となり、あえてここで述べることはしないが、「在日韓国・朝鮮人」は、その形成過程が日本政府の政策と密接な関係があること、何世代も日本で生まれ、生き続けながら、国籍が与えられていない点で他と異なるということは、どうしても指摘しておかねばならない。

(この本で著者は「在日」という言葉を使っている。筆者による「在日」とは、「在日韓国・朝鮮人」のことであり、「朝鮮半島出身者およびその子孫だが日本に永住する意思のある人々で」、「国籍が日本でもとも日本社会のメンバーである」。)

著者は「在日」の存在は政府の政策によるものだと教えてくれる。

「在日」の始まりは、日本の植民地時代、労働力として物理的に日本に強制連行された人々、もっと多いのは、生活の糧を求めて、あるいは求めざるをえなくて渡日してきた人々である。これらの人々は日本の敗戦まで日本国民とされていた。

しかし、敗戦後、「在日」は、日本政府の出した外国人登録令により、外国人として管理の対象にされた。これがもっと明確になったのは、サンフランシスコ講和条約締結後である。日本政府は外国人登録法により、日本国籍の選択権を与えられなかった旧植民地時代の出身者を外国人として管理するようにした。ただ、特別のビザが必要でない点で、他の外国人と違うだけである。

日韓条約以後、「在日」に与えられた「協定永住」等の永住資格は、永住できる権利の永住権ではなく、日本国政府が与えた永住の許可であり、日本国政府の裁量次第でいつでも剥奪可能なものである。

こういう一連の政策で「在日」は日本社会のメンバーでありながら、外国人になってしまい、国籍も永住権も与えられなくなったのである。

では、日本国籍を取得する道はないのか。用意されているのは、一般外国人でも認められている「帰化」という手続きである。では、みんな帰化して日本国籍を取得したらいいのではないかとも思われるが、そんなに簡単に片付けられる問題ではない。

著者は帰化した著名人を紹介してくれた。大衆的「日本人」ヒーローで、「在日」であることを公にすることなく、「日本人」で貫き、ただ、「自分だけの部屋を自宅に持ち、この部屋には朝鮮の文物があり、自分が小さい頃から馴染んでいた世界があった」のは力道山である。帰化したことを隠して選挙に出馬して「元

朝鮮人」ということで落選すると、次は「私は日本人です」と、これからは日本人で日本国のため日本国民のために努力する姿勢で訴え、ついに当選したが、その後自殺を選んだのは新井将敬である。彼の死に対し、著者は「・・・帰化人として社会的に上昇していくルールは日本社会が創り出したものであり、そのルールに乗って死の淵まで導かれていったことだけは否定できないに違いない」と述べている。いじめの経験から、はやくにアメリカ留学を選択し、帰国してベンチャー・ビジネスで成功し、妻の氏を変えるまでして、朝鮮名で帰化したのは孫正義である。

人は死を選ぶことができても、生を選ぶことはできない。「在日」として生まれることには、取り返しはない。では、「在日」として生まれてくれば、どうすべきか。孫正義によれば、「近未来の地球は多国籍の時代になるので、免許証を取るように国籍も変更できるし、国籍は便宜上のものになる。ただ、どのように名乗るかは個人の自由である」。これは、「韓国籍（または朝鮮籍）でありながら、韓国への帰属意識が欠ける『在日』は、日本国籍を取得して日本人として生きていく。そのうえで、朝鮮系日本人として生きていくか、日本に同化してしまうかは、個人の問題とする」という、ある「在日」二世からの提案とも合致するところがあるが、その前に解決すべき問題があると思う。それは、「在日」が取得する日本国籍は、外国人としての帰化という手続きによるものではなく、正常な国籍取得権利として与えられるように法改正をすべきことである。中国の民族政策は諸外国に批判されがちであるが、この点では日本が見做すべきではないかと思われる。これが、中国の朝鮮族である私が唯一一つ言っておきたいことである。

### 優秀賞を受賞して .....

日本で留学していると、段々日本の社会に馴染むようになります。日本語が流暢に話せるようになりますし、納豆も食べられるようになります。しかし、物事の見方、考え方だけは、どうしても育った環境に影響され、日本人とかなり違うものとなります。その違いを述べるかどうか迷うこともありますが、違いを互いに知ること、世界がすこしでも広がると思い、かなり偏った見方かも知れませんが、今回の感想文では思うままに述べさせていただきました。

下手な日本語だったので、受賞するとは思わなかったのですが、とても嬉しいです。

## 「三浦文庫」

今年3月で北陸大学を退職されました、三浦泉教育能力開発センター教授から、2,313冊の図書の寄贈がありました。約30年という在任期間中、研究対象であった医事法やホスピス関係のほか、哲学や歴史、文学など、多岐にわたる分野の図書を寄贈していただきました。



優秀賞

## 『人は見た目が9割?』!

未来創造学部 未来社会創造学科 3年次生 徐 茵菲

著者 竹内 一郎

出版社 新潮社



「人は見た目が9割」というタイトルはいかにも挑戦的だ。

「人は見た目が9割」と言われると、ルックスが大事で、とりあえず外見を磨けという内容かと思ったが、まったく違うものだった。「見た目」というのはルックスだけではなく、顔つき、仕草、目つき、匂い、色、体温、距離などのことである。筆者は、言葉以外のものをすべて「見た目」と定義している。同じ説得力のある言葉でも、伝わる場合と伝わらない場合がある。それは、声量であったり、自信であったり、言葉にならない表現、普段のファッションなど非言語コミュニケーション（ノンバーバルコミュニケーション）が大きなウエイトを占めていると言う。演出家で、漫画家で、学者でもある筆者が人間の見た目や仕草・表情が相手にどんな印象を与えるかということ、様々な例を挙げて述べている。

その中で一番印象に残っているのは、女の嘘がばれない理由である。男が嘘をつく時は目をそらす。やましい気持ちが目に表れる。ところが女が嘘をつく時は、相手をじっと見つめて取り繕おうとするらしい。「目の処理」が異なるからであると言う。しかも女はなぜ勘が鋭いかについて、「長い間日本では、女性の社会的立場が低かったからだ。」と述べている。確かに社会的立場の弱い女性は、相手がどう思っているかが大事なのである。自分が生き延びるために、相手の気持ちを尊重しなくてはならず、自然に相手の本心を見抜く勘が磨かれるらしい。

「だから私のウソもばれないのか?!」筆者の洞察力に敬意を!

ところで、日本ではどうしてこうしたコミュニケーションに関する本がよくベストセラーになるのだろうか。「相手に、わからせ、自分を通す」のが欧米流（中国も含まれていると思うけど）で、「お互いに、語らず、察する」のが日本流、というのは確かなようである。喋るのが得意でないから、またはっきりと自分の意見を言うのが差し控えられるからこそ、日本人にとって非言語コミュニケーションはとても大事なものとなるのだろう。その場の空気や雰囲気を感じながらコミュニケーションしなければならないのなら、それは言葉による自己表現よりずっと難しい。だから多くの日本人は、人との付き合いに苦労しているのだろうか。

しかし、外見であれ、非言語コミュニケーションであれ、コミュニケーションの仕方であれ、それだけに目を向けるのは本当に正しいことなのだろうか。

私はやはり、「人は見た目じゃなくて、心だよ!」と言いたい。私たちはこういうコミュニケーション関係の本を読んでいる時、「見た目」の下に隠れている自分の内面のことを考えたことがあるだろうか。

突き詰めていうと、人は存在するという事実だけで既に周囲に何かを伝えているということだ。本書が定義している「見た目」とは、実はその人の内面を表しているのではないか。たとえ何も喋らなくても。

私にはとても美しい友がいる。顔つきは絶世の美人とまではいかないけれど、私も含め周りのすべての人はいつも「美人だなあ!」と憧れる。最初はあまり付き合いがなかったが、あるきっかけで、とても独創的で個性あふれる彼女に出会った。そのとき以来、本当は人一倍個性が強いのに、あの謎めいた微笑と穏やか



な癒しは一体どこから来るのだろうと、私は長い間考え続けていた。

個性の強い人はたくさんいる。そして、そんな人はほかの人とは違った意見を言い、他を圧倒する。しかし、彼女の持つ「個性」とは普通の個性と異なって、あの癒しの笑顔、あの穏やかな雰囲気にも包まれたものではないか、そして、もしかしたら、彼女自身もそれに気づいていないのではないかと、と。

彼女に憧れているが、私は彼女ではなく、彼女のようにはなれない。けれど、私の内面にも私らしい「心」があり、私らしい「表情」があるはずだ。だから、自分独特の「内面」を上手く他人に伝えればいいのかと私は思うようになった。本書を読んで、「こういう表情がやさしく見えるから、これからこうしよう」と思う人が多いかもしれないが、自分の本当の内面を伝えることができれば、この世界にただ一つのあなたの「心」をありのままに表現することができれば、それはそれで生き生きとした表情になり、「個性」があふれるのではないだろうか。本書を読みながらふとそう思った。

私たちがしばしば付き合いに疲れるのは、いつも「見た目」を気にして、自分が持っていない「内面」を人に見せたがるからではないか。だからこそ私たちは時には、誠実に自分らしく生きていけないのだ。

こう考えると、本書はとても奥の深い本だ。

そして、私は思う。

そうだ！「見た目」が本当に9割だとしても、私は、残りの1割で勝負しよう！

### 優秀賞を受賞して .....

読書感想文コンクールの受賞者リストを見て、「何で私の名前がそこにあるのだろう?!」とちょっと不思議に思いました。

正直にいうと、『人は見た目が9割』という本を読んでかなりがっかりしました。「それじゃ感想文なんか書けないよ!」と思っていた時、友達の「じゃ、がっかりした理由を書けば?」という一言で目が覚めました。感想文というのは褒め言葉ではなくても構わない、読んで思ったことを素直にそのまま書けばいいということは、今回の読書感想文コンクールを通じて一番勉強になったことです。



優秀賞

## 『日本という国』を読んで

未来創造学部 未来文化創造学科 3年次生 出越 菜摘

著者 小熊 英二

出版社 理論社



世界中を旅して回っているあるカメラマンが、以前自分の写真集の中でこうコメントしているのを読んだことがある。「色々な国の人と話していていつも一つだけ“負けた!”と思うことがある。それは自らの国に対する愛情だ」、と。日本人に愛国心が欠けていることは今日よく騒がれている問題だが、正直私はそれを無理もないことだと思っている。先に断っておくが、私は日本という国を嫌っているわけでは決してない。多くを語れるほど自国のことを知っているとは言い難いが、それでも良いところや悪いところ、どうしようもないところも全部含めて、それなりの愛着を持っている。では何故今の日本人に愛国心が無いことを無理もないと考えているか。その理由は、現代の日本人の歴史認識と、物事の受け止め方にある。

日常生活の中で強く感じるのだが、私たち日本人というのは与えられる情報に対してひどく無垢で従順だ。若い世代は特にその傾向が顕著だと思う。私自身、まるで他人事のように書いているが、大いにこの例に当てはまる典型的な日本人である。ニュースや新聞、あるいは人の口から教わった情報を、何の疑問も持たずに飲み込んでしまう。戦時中の情報一つを例に挙げても、日本の過去のあやまちを強調した番組を見れば「日本はそんなに酷いことをしたのか」と落ち込み、逆に日本を持ち上げた番組を見たら「日本は悪くない。悪いのはアメリカだ」と憤る。こうやってころころと意見を容易く左右されてしまうのは、各々の中で自国に対する認識が定まっていない為だと私は考えている。マスメディアによって与えられる情報を、十分に吟味できるだけの下地が、現代の日本人にはないのではないかと。国内外の様々な思惑の絡んだ日本の教科書には、大まかな歴史の出来事は書いてあっても、その歴史が築かれることとなった裏事情が欠けていることが多い。歴史とは断片的な出来事が積み重なって生まれるものではなく、一つ一つの事象が繋がって流れていくものだ。現代の日本という国を知ろうと思えば、それこそ過去から今に至るまでの流れを辿らなければならない。その大まかな流れを知るぶんには、この『日本という国』という一冊はとても適した本だと感じた。

筆者は第一部において日本の「教育」について説き、第二部ではその教育の果てに起こった戦争について述べている。本というものが筆者の考えをより多くの人に伝えるための媒介である以上、文面に筆者の主観が混じるのは致し方ないことだ。この本は若い世代にできるだけ先入観を与えないよう配慮されているため、できる限り中立の立場から物事を捉えているが、やはり第二部以降は少なからず筆者の心情が混じった点も見られた。その中で、最も私が共感を覚えたのが日本のナショナリズムに関する項目だった。筆者はここで、「日本の誇り」に対する日本人の思い違いについて記している。靖国神社参拝、歴史教科書問題の書き直し、第九条の改正などの諸問題において、ある政治家は「武士道」を盾に強気であることが大切なのだと言っていたが、私はそれを新渡戸稲造に対する冒瀆だと感じた。「日本の誇り」や「武士道」とは、手を取り合い、互いに歩むべき相手との仲を冷え込ませることを言うのだろうか。己の信念を曲げないことも確かに大事だが、主張とは「張る場面を間違えてはいけないもの」だと私は考えている。日本には克己という言葉がある。意味は読んで字の如くおのれにかつこと。意思の力で自分の欲望や感情を抑えることで、他者の意思こそを尊重する、とても尊い精神だと思う。この言葉こそ、現代の日本人が忘れていない日本の誇りではないか。私

は何も日本が国際社会において、他国の顔色を伺ってばかりの、口を噤んだ国になればいいと考えているわけではない。ただ、強国に対しては始終顔色を伺う反面、それ以外の国には背を向ける在り方が、サムライの国には相応しくないと感じるのだ。1995年、沖縄で女子小学生が米兵に集団暴行された事件について、本文中あるインド人が「日本はサムライの伝統があるといっている国だと聞かすが、そういう国辱ものの事件がおきたときに、日本刀を持って米軍基地に乗り込みに行くような右翼は、日本にはいないのか」と筆者に尋ねているが、これはとても日本人として耳に痛い言葉だった。私は右翼ではないし、日本刀を持って米軍基地に乗り込む云々は過剰な表現だとしても、日本人は愛国心ばかりか、同じ国に住む仲間に対する愛着や関心すらも薄れつつあるのかと思うと恥じ入るばかりである。この事件の際、日本政府は、国民の米軍反発運動を支援するのではなく、米軍基地を庇う姿勢を通じた。これでは日本政府はどこの国の政府なのだか解からない。守るべき国民の前に立ちはだかる為政者など、存在理由からして謎である。

明治時代より前、日本では道行く人の多くがその腰に刀を下げていた。その気になれば何時どんなときでも人を即座に斬り殺せる凶器を、公然と持ち歩いてたということになる。それが当たり前のこととして許されていたのは、侍が場を弁えず刀を抜くことはないだろうという周囲の暗黙の了解があつてこそである。その点、現在の日本人はどうだろうか。政治家のみならず、私たち国民はどうだろうか。場を弁えずに、抜刀してはいないだろうか。刀を向けるべき相手をその背で庇い、真実護るべきものを間違えてはいないだろうか。謝罪すべきところでは心からの謝罪とそれに準じた行動を、抗うべきところでは確固として自己を通すことを。肝心なのはその見極めを間違えないことで、間違えないためにはまず各々がもっと物事に対する視野を広げることが大切なのだと私は思う。

### 優秀賞を受賞して .....

もともと本を読むことは大好きなのですが、今回のように自分が本を読んで感じたことや思ったことを一つの形にまとめてみると、普段とはまた違った形で一冊の本を楽しむことができ、とても面白かったです。これからも本を読むときは、ただ文字を追うだけの読書ではなく、常に何かを感じ、受け止めること、または考えることを忘れないよう気を付けていきたいと思っています。

### 寄贈図書

本学の教職員から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書 名	寄 贈 者
詩と酒と田園	櫻田 芳樹 (教育能力開発センター教授)
加賀殿再訪 ほか 21冊	長谷川孝徳 (未来創造学部教授)
現代政治学の課題	小南 浩一 (教育能力開発センター助教授)
図説現代の心理学 ほか 23冊	星野 命 (教育能力開発センター教授)
英語教育学概論 ほか 38冊	柳沢 順一 (未来創造学部教授)
日語常用漢字学習詞典 ほか 2冊	汪 麗影 (国際交流センター講師)
Socio-Cultural Transformation in the 21 <sup>st</sup> Century?	楠根 重和 (未来創造学部学外講師)

※平成19年3月時点での職名です。

優秀賞

## 『夏の庭』を読んで

未来創造学部 未来社会創造学科 2年次生 二橋 環

著者 湯本 香樹実

出版社 新潮社



この物語は三人の少年と一人のおじいさんの物語である。この三人の少年たちはあることに興味を持つ。それは「死」であった。どうにかして死んだ人をこの目で見たい、そう思い三人はおじいさんの観察を始めたのである。初めはこの少年たちを警戒していたおじいさんもいつしか打ち解け合うようになり、またおじいさんと触れ合う中で少年たちも大切な事を学んでいくのであった。

この物語の中で少年たちは「死」というものについての考え方が少しずつ変わっていったように感じた。初めは死というものが、どのようなものなのか分からず、ただただ見てみたいという感じであった。しかし、友達が溺れて死にかけそうになり、おじいさんの戦争の話を聞き、色々な体験をしていく中で命というものの尊さを感じ取っていったのではないかと思う。実際に私が読んでいてもそう感じ、特におじいさんの戦争の話で何も罪のない人たちを殺してしまった事には、たとえ戦争といえども“仕方がなかった”では済まされないのではないかと思った。

ところで、この物語の中で少年たちはとても面白い事をいっている。それは、「生きているほうが不思議なんだよ、きっと」という言葉である。私はこの言葉にとっても納得してしまった。「人間は案外簡単に死んでしまうものなのかもしれない」…実際にその通りなのかもしれない。例えば交通事故や上から物が降ってくる、また転んで頭を打つ。これはこの子供たちの発想だが、なるほど！というほど納得してしまった。そして「死ぬのは別に不思議なことじゃないんだろうな。誰だって死ぬんだから」とも言っている。これにもとても納得してしまった。確かにそう考えると、今までずっと死んでいない人なんて一人もいない。人は必ず死ぬのである。ではなぜ、人は産まれてくるのか。そんなこと私に分かるわけがない。ただ一つ言えるのは、この作品にも書いてある通り、せっかく産まれてきたのだから、死んでもいいと思えるほどの何かを見つけない、私もそう思っている。現在ニートというものがとても流行っているが、それが悪いと言いたいわけではない。しかし、彼らには目標というものがあるのだろうか。ただただ毎日を送っている、そんな人生でいいのだろうか。私はせっかく産まれてきたのだからやはり目標を持って生きていきたいと思う。それが勉強でも遊びでも恋でも何でもいいと思う。死んでもいいと思えるほどのことをしたのなら、それだけで産まれて生き、そして死んでゆく価値はあると思うからだ。

ところで話は変わるが、この物語の中で三人の少年とおじいさんはコスモス畑を育てていき、その中で一人の少年がホースの水をかぶってしまう場面がある。その時に小さな虹ができるのだが、その小さな虹からも少年は学んだ事があったようだ。それはホースの角度を少し変えるといつも見えない光が見えたこと、つまりほんのちょっとしたことで分かることもあれば、長くて辛い道のりの果てに、やっと出会えることもあるに違いないという事だ。私はこのことから、物事には一つの方向から見てそれだけが正しいと思ってしまいがちだが、他にも色々な見方があり、その色々な方向から見て考える事が大切なのだと思った。

この作品を読んで、私はだんだん年を重ねるごとに何か、とても大切なことを忘れていたのではないかと思う。この少年たちは何でも疑問に思い、何にでも興味を持ち、そしてとても素直に受け止めている。その

ような素直な気持ちを忘れ、いつの間にか損得を考え、自分の事しか考えていないようになったのではないかとさえ思う。しかし、この物語を読んでいるときはとても素直な気持ちになれた。私はこの気持ちを忘れてはいけないと思う。これから出会う色々なことに興味をもち、そして色々な考えを持てるようになり、そして人生の目標を持ち生きていて良かったと思える人生にしたいと思っている。

### 優秀賞を受賞して .....

今回この賞を受賞して本を読む楽しさ、大切さを改めて感じることができました。私には本を読む習慣がなく、今回のようにじっくり読んだのはとても久しぶりで、それを感想文にするのは大変でした。しかし、本を読むことによって感性が豊かになり、読解力もつくと思うので、今の私にはプラスになる事ばかりだと思います。これからも続けていくとともに、また一人でも多く本を読む人が増えればいいと思います。



平成18年度中、ライブラリーセンター図書の利用が多かった学生の皆さんです。(学籍番号順)



薬学部	外国語学部	法学部	未来創造学部
長岡 正大	周 謙謙	呉 松花	宮西 加奈 王 玥
富田 尚良	趙 明月	郭 淼	宮本 真希 関 明輝
村上 哲彦		洪 明蘭	山崎 裕史 張 碩
本杉 麻美		徐 琦	吉村 卓也 華 京碩
		楼 晶晶	金 春蘭 鍾 麗娜
			史 趙倩

☆多くのご利用ありがとうございました。来年度も学生の皆さんのより一層のご利用を期待しております。

優秀賞

## 『わたしのなかのあなた』を読んで

未来創造学部 未来社会創造学科 2年次生 前田 絵美



著者 ジョディ・ピコー

出版社 早川書房

「アナ、13歳。白血病の姉のドナーとして生まれた少女」

私が無気なく見つけたある本の帯にそう書かれていました。衝撃的でした。ドナーとして生まれるということが、あり得るのだと。それが、この「わたしのなかのあなた」を読むきっかけとなったのです。

世の中には、望まれて生まれた子供と、そうでない子供がいます。この本の最も中心的存在であるアナ・フィッツジェラルドは、少し違った意味で望まれて生まれてきました。その意味、それは彼女が、白血病を患う姉のドナーとなるべく、遺伝子操作により「デザイナー・ベイビー」として、生まれてきたということです。「デザイナー・ベイビー」とは、ドナーにするために遺伝子をデザインされたベイビーです。

アナは生まれた時から、臍帯血の提供に始まって、輸血や骨髄移植など、姉の治療の為にさまざまな犠牲を強いられてきました。しかし、姉の病状は一進一退を繰り返し、ついに両親は残された最後の手段である腎臓移植を決意します。ところが、アナはこれを拒み、弁護士を雇い、両親を相手取って訴訟を起こします。「もう、姉の犠牲にはなりたくない。自分の体に対する権利は自分で守りたい」そして、白血病の姉、放火魔の兄、アナの訴訟に戸惑う両親、アナの心の葛藤と話は展開します。最終的には、アナが勝訴します。しかし、運命は皮肉です。アナは法廷からの帰り道、交通事故に遭い、脳死状態になってしまうのです。そして、アナの腎臓は姉へと移植されて最後を迎えます。

読み終えた後、とても考えさせられました。もし、私がアナだったら。姉のドナーとして作られ、生まれてきた自分に、個人の尊厳はどうなるのでしょうか？姉に何かあるたびに、心と体を犠牲にしなくてはなりません。私は一体何なのだろう？姉のためにいる存在なのだろうか？そして、姉に腎臓をあげることができるだろうか？答えはわかりません。しかし、「デザイナー・ベイビー」であり、単なるドナーでしかない存在だからこそ、遺伝子を操作したという人工授精の問題や、個人の尊厳が認められないという人権問題が考えられます。

裁判開始当初、アナはどうしても証言をしませんでした。それは、アナが訴訟を起こした発端に結びつきます。アナは、姉から「殺して」と言われていたのです。それは、辛い入院生活からの解放と、お荷物である自分がいなくなればとの気持ちからでした。アナはその時、姉を失いたくないという気持ちと、これで自由になれるという気持ちがありました。私はここに、家族の絆と人の醜い部分が見えた気がして、辛くなりました。私も、時々、友達の悩みを聞いていて、親身に思う気持ちが最初はあっても、次第に面倒だ、解放されたいと感じることがあります。そんな自分に嫌気がさします。人は結局、自分が一番であると見せつけられている気がするからです。私は、アナの提訴は間違っていなかったと思います。姉のために遺伝子操作で作られたとはいえ、彼女はクローンではないし、スベアではないのです。一個人です。誰かのために捧げてきた自分の将来を、自分のために覗きたいと思うことは、許されないことなのでしょうか？そして何より、愛する姉の願いを叶えたいと思うことは、当然ではないのでしょうか。アナはわずか13歳でありながら、この辛く苦しい問題に立ち向かい、勝利し、死んでいきました。現在の医療は、遺伝子操作で人間を作り出

すことが可能です。それは、アナと同じように、自分と全く同じ遺伝子を持ったドナーを作ることが可能になったということです。この事実により、私たちはこれから増える可能性のある、遺伝子操作で生まれてきた人の人権問題や人工授精問題について、より理解を深め、人とは何であるかという根本的な部分を、あらためて考え直す必要があると思います。

### 優秀賞を受賞して

今回の受賞を、驚きとともに大変光栄に思います。読書は心を豊かにし、様々な知識を得ることだけでなく、自己を見つめ、誰もが抱えているであろう心の中のもう一人の自分と向きあうことでもあります。それは時に喜びであったり、失望であったりするかもしれません。しかし、そこから得るのはとても大きく、これからも読書を通して、自分を成長させていきたいと思っています。

### 審査委員から一言

審査委員  
大西邦治

それなりの分量の本を読み、そこから感じたこと、考えたこと、自分の行動に変化をもたらしたこと、などを読書感想文という形で文章にまとめることは大変力の要る仕事であったことと思います。審査委員の一人として皆さんから応募していただいた読書感想文を読ませていただき、つくづく思い感じたことでした。

今回の審査で賞を受けることになった学生さんも、また、残念ながら選に洩れた学生さんも、読書感想文を書き上げたとき、きっと充実感を抱いたことと思います。そして、それを書き上げたあなたは、そうする前のあなたより確かに一段と高いところに成長したのではと思います。これからも気になる本を手に取り、日々の読書を続けてください。心に響いた文章を書きとめてください。それを「読書コメント」として紹介してください。そんな本の中にまたきっと読書感想文にしようという本が現れることでしょう。あなたの次の応募をわくわくとした期待をもって待つことにします。

審査委員  
大楽光江

「読書感想文」というのは、意外と書きにくいものかもしれません。どう書いてもいいからです。「読んで、思ったこと、感じたこと、考えたこと、学んだこと、感動したこと」が伝わればいい、わけです。読んだ内容と、それに対する自分のリアクションが、まだ読んでいないひとにも、いきいきと伝わるようなら、大成功ですね。時間も空間も超えて思いがけない旅を楽しめるのが読書。感想文は、そんな楽しみの記録です。対象作品の世界に深く分け入って自分なりの対話をしてきた経験と楽しさを、自分なりの方法で伝えてくれた感想文、を受賞作に推薦しました。

審査委員  
山本千夏

今年度は応募総数が61編でしたが、1年次生の応募がなかったことが残念です。1年次生は他の学年に比べ“ゆとり”があり、このような時間を使って読書感想文コンクールに応募する雰囲気づくりが必要かもしれません。

「読書離れ」は社会全体の問題で、若者に限定されるものではないと思います。その原因としては、仕事・学業・娯楽に忙しく時間がない、読みたい本がない、情報源としてのインターネット使用の普及などが考えられます。たとえ本を読むという積極的な姿勢をもった場合でも、果たして自分自身の好みや意思で本を選んでいるのでしょうか。

そんな中で、理由はともかく、第6回読書感想文コンクールに応募してくれた学生・大学院生、ならびにご指導して頂いた教員の皆様に感謝いたします。平成19年度の第7回読書感想文コンクールに多くの学生・大学院生が応募してくれることを期待しています。

## 電子ジャーナル導入のお知らせ

ライブラリーセンターでは、2006年まで薬学部分館で購入していた81タイトルの外国雑誌を、2007年からはできるだけ電子ジャーナルで購入するという方針のもと、検討を重ねてきました。

その結果、冊子のまま購入する外国雑誌は8タイトルのみとなり、73タイトルの外国雑誌は、電子ジャーナルで閲覧できるようになりました。なお、「Science Direct (サイエンスダイレクト)」の契約や、日本薬学図書館協議会のコンソーシアムに参加することにより、電子ジャーナルで閲覧できる雑誌のタイトル数が大幅に増加し、二次資料検索システムとの連携も可能となり、二次資料データベースでヒットした該当論文が電子ジャーナル契約されていれば、その場で全文をダウンロードすることも可能となりました。

電子ジャーナルを閲覧するには、ライブラリーセンターホームページ(学内向け)の「電子ジャーナル・データベース」(<http://inetsvr.hokuriku-u.ac.jp/addoff/library/homepage/library.htm>)に情報を一元化したシリアルソリューションをご利用ください。

### \*\*\*利用できる電子ジャーナルは、次のとおりです\*\*\*

名 称	内 容	タイトル数	閲覧可能年
Science Direct	エルゼビア社が発行する808誌の科学・技術・医学・社会分野のジャーナル	808 (サブジェクトコレクション含む)	1995年
Wiley	Wiley社が発行する雑誌の内、医薬学系236タイトルのジャーナル。なお、コンソーシアムに参加した各参加館が個別に契約したタイトルを全参加館共通で利用できます	236	タイトルによって異なりますのでホームページで確認ください
A.C.S	化学分野最大の学会American Chemical Society (米国化学会)が発行する雑誌の内、主要24タイトルのデータ A C S 出版物は最も頻繁に引用され、そのインパクト率は化学分野では最高とされています	24	1996年
Rockefeller	Rockefeller University Pressが発行する雑誌の内、細胞生物学、実験医学、一般生理学分野3タイトルの初号～最新年のデータ	3	初年度より

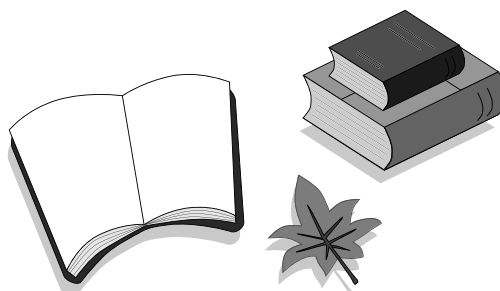
### \*\*\*利用できる二次資料データベースは、次のとおりです\*\*\*

SciFinder Scholar	世界最大の化学系の抄録を検索できるインターネット環境の二次資料データベース	学内LAN接続 同時アクセス1
Current Contents	主要学術雑誌の目次情報を検索できるインターネット環境の二次資料データベース	スタンドアロン方式
医学中央雑誌	生理学・生化学などの基礎分野及び臨床医学の各分野など、医学・薬学及びその関連領域の、国内で発行される約2500誌の定期刊行物から、毎年30万件以上の文献情報を収集している国内随一の二次資料データベース	学内LAN接続 同時アクセス1～2



## 読書コメント大賞のお知らせ

ライブラリーセンターでは、今年度から「読書コメント大賞」の募集を開始しました。これは、学生の皆さんが本を読んで、簡単なコメントを書いていただくものです。ほかの人がそのコメントを読んで、自分もその本を読みたくなるような、個性的な、楽しいコメントを期待します。毎月審査を実施し、月間優秀賞を選びます。その中から、年間の優秀賞（金賞・銀賞・銅賞・特別賞）を選び、表彰します。皆さんからのたくさんのお応募を期待しています。



### 編集後記

『プルタルコス英雄伝』によれば、アレキサンダー大王は、最高の知識を独占し、知識人としての名誉心を満足させるため、自然学における秘密の口伝の論説を公刊しないよう求める手紙をアリストテレスに送ったそうですが、現在ではこのような論説も簡単に手にとって読むことができるようになりました。ライブラリーセンターを自由自在に利用し、人類の英知に親しんで欲しいと思います。

#### CONTENTS

	頁
第6回北陸大学読書感想文コンクール表彰式挨拶	1
視界を広げる読書—読書感想文審査を終えて	2
最優秀賞感想文	3
優秀賞感想文	5
利用頻度上位者発表	12
審査委員から一言	14
電子ジャーナル導入のお知らせ	15
読書コメント大賞のお知らせ	16

#### 北陸大学ライブラリーセンター報 NO.23

平成19年10月25日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター  
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1  
TEL. 076-229-3021  
FAX 076-229-4850

ライブラリーセンターEメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp  
北陸大学ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/

印刷：カンダ印刷株式会社